

だれでも幸せになれる教えです!!

# ひかり

2022年

12月

208号



- ◇忘己利他、自利利他の心
- ◇幼児の置き去り事故はなぜ起きるのか
- ◇自・他の境界線を大切にす
- ◇自利の家庭生活を見直す 他

宗教法人 真生会

# 信仰の視野を広げよう

『自分から家族へ、家庭から社会へ』

## 真生会の教えとは！

仏さまの智慧とものの見方を身に付け、自分の運命を変え、在家の法華経教団です。宗旨宗派は問いません。どなたでも安心してお越し下さい。

### ◇慈悲の世界「真生楽園建設」

- ・ぬくもりと安心のある家庭と社会を作る
- ・思いやりと親切の実践

### ◇即身成仏「輝く自分作り」

- ・ありのままに輝く自分自身になる
- ・笑顔と明るい声かけの実践

### ◇幸福の五ヶ条

- 一、素直な心：（おかげさま）
- 二、誠の心：（まず人さま）
- 三、明るい心：（きっとよくなる）
- 四、尊ぶ心：（仏性を拝む）
- 五、信じる心：（皆、仏の子）

# ・22 除夜の鐘 ・ 23 新年初詣



## ★除夜の鐘

大晦日

夜 10 時～ 11 時

※先着 108 打限り

※ 10 時より 10 分間

ライブ中継あり



一年の指針

「仏さまの声」金色の短冊



## ☆真生寺初詣

元旦、二日

正午～夕 4 時まで

- ・ 福だるま特別祈願
- ・ 交通安全大祈願
- ・ 仏さまの声、短冊授与
- ・ 初鐘つき



# 七五三詣り、子供災難除け祈願



↑大阪教会



↑総本山真生寺



11月13日  
(日)



## 真生寺・真生楽園 一斉勤勞奉仕

11月27日(日)

老若男女、各地から大勢の皆様のご協力有り  
難うございました!!



## 開祖さまのみ教え

開祖 たなか 田中 ひで 偉仁 ひと

仕事中に私語（おしゃべり）の多い人は、にぎやかで明るい、仕事の能率が上がらず、マインナスが多い。「時は金なり」井戸端会議の好きなご婦人の家庭は、無駄が多く大抵は経済に苦しんでいる。

例えば、幼児のお迎えに幼稚園バスが来る。バスと共に子供たちは団体に生活に飛び込み、帰宅するまで先生の指導に従って頑張っている。

しかし、集合場所でわが子を見送った後、いつまでも井戸端会議をしている母親は、母として妻として失格である。会社でも会議は短い方がいい。会議も長引くと、為になる話より人の悪口や批判が多くなる。留守を守る母や妻の行動が、学校での子供の成長や会社での夫の成績に現れる。遠く離れた場所にも敏感に通ずるものである。

（1997年、真実に生きるひかり103号より）

# ぶし眞教法話

会長 田中庸仁  
たなか つねひと



## ◇忘己利他、自利利他の心

仏教は慈悲の教えと言われます。悩み苦しむ相手に寄り添い、共に悲しむ「共苦」の心です。

比叡山ひえいざんを開いた伝教大師・最澄さいちようは「忘己利他もうこりた、己を忘れて他を利用するは慈悲の極みなり」と教えられました。つまり、自分のことは後回しにして相手の幸せのために尽くすことが、本当の慈悲であるという教えです。

一方、同じ時代に活躍した弘法大師・空海は、修行の究極は「自利利他じりりた」の実践であり、釈尊の教えはこの「二利」に尽きると断言しています。

「自利」とは自分の幸せのため、「利他」とは相手の幸せのためということですが、自利と利他は相対する別々のものではなく、切り離すことのできない一

体のもので車の両輪と同じです。どちらかが大き過ぎたり小さ過ぎてバランスが悪いと真っ直ぐに進めません。

そして、自利⇨自分の本当の幸せを突き詰めていけば、利他⇨相手の幸せに行き着くのです。世の中に自分一人だけでの幸せはあり得ません。共に幸せを分かち合える人があってこそ本当の幸せなのです。

例えば、自分がどれだけ幸せでも、家族の誰かが病気・貧乏・不和という不幸で苦しんでいたら、本当の幸せとは言えません。自分の家庭は円満でも、隣の家がもめていたら、安心して暮らせません。

また、自分の国は平和でも、ロシア・ウクライナ戦争のように近隣の国が戦争をしていたら、いつ誤ってミサイルが飛んで来るかもしれせんし、実際多くの国々が悪影響を受けています。

伝教大師の忘己利他の教えのように「自分のことは後回しにする」ことは難しい事のように思えますが、実は相手の幸せを優先することの方が、早く自分の幸せを得られるのです。本当の幸せは自分も相手も幸せになってこそその幸せなのです。利他を忘れた自己中心的な自利の行動は最後不幸を招きます。

## ◇幼児の置き去り事故はなぜ起きるのか

最近、幼稚園児が送迎バスに置き去りにされ、熱中症で無くなるという悲惨ひきさんで痛ましい事件が起き、胸の張り裂ける思いです。

その後、政府からの対策通達にもかかわらず、同様の事件が続いています。なぜこんなことが起きるのでしょうか。

世の中はすべてご縁の世界です。送迎バスでの事件は、たまたまいつもの運転手と送迎役の保育士さんがお休みという不運な縁が重なったのです。高齢の園長とベテランの先生が代行したため不慣れであった？との釈明でしたが、そこに園児のひとり一人を思いやるという深い愛情、つまり利他の心が欠けた機械的・自動販売機的作業の結果と言えます。

続いて、三十代の若い父親が二人の子供を幼稚園に送った後、後部座席のチャイルドシートにいた三人目の二歳男児を保育園に送ることを忘れて出勤し、炎天下の車の中に置き去りにされた幼児は亡くなりました。父親は「仕事のことを考えていて忘れた」というが、忙し過ぎたのでしょうか。「忙しい」とは心偏に亡くなると書きます。何の心が亡くなるのか、相手を思いやる「利他の心」

が亡くなって、自分の都合という「自利」が中心になっている生活の結果と言えます。

### ◇子ども食堂の実態

コロナの影響により生活困窮家庭（こんきゆう）が増え、全国で六千カ所も子ども食堂があるそうです。その活動目的は、①子供への食事提供、②子供の居場所作り、③ひとり親家庭の支援などです。

つまり、夫婦共働きが当たり前になり、子供や生活のためと言いながらお金儲けが優先され（自利）、ゼロ歳児から託児所に預けられ、子供への手間暇や愛情（利他）が他人任せになっているのは本末転倒ではないでしょうか。

また、離婚によりシングル・マザーやシングル・ファーザーのひとり親世帯が増えているのです。統計によると結婚して一、二年で離婚する夫婦が多いそうです。なぜ結婚して間もないうちに離婚するのでしょうか？

夫婦が互いに自分の要求や主張ばかりを言い（自利）相手のことを思いやる心（利他）が無くなるから離婚するのでしょうか。相容れない父親と母親の境目にすき間ができ、弱い立場の子供が一番被害を受けているのです。

子ども食堂の活動は尊いことですが、夫婦や親子の間での利他の実践無くして根本解決にはならないのではないのでしょうか。一考が必要です。

### ◇自・他の境界線を大切にする

今は亡き放送作家・永六輔えいろくすけさんは東京下町のお寺の子でした。小学生の時、父親の住職から明日からお寺の前を掃除するように言われ、張り切ってお向かいさんの家の前まで掃除をした。

すると、江戸っ子の向かいのおじさんが怒鳴り込んできて「誰だうちの前まで掃除しやがったのは」

誉めてもらえると思って「僕です」というと「おれは朝早く起きてチーンとお灯明あげて、うちの前を掃除して、熱いお茶を飲んで、という手順があるんだ。それが今朝出てきたらきれいになってる。許せねえ。余計なことをするんじゃない」と叱しかられた。

翌朝、道幅を測って、真ん中からこっただけを掃除して水も打ってキレイにした。これで文句はないだろうと思っていたら「今日の掃除は気に入らねえ。もうちよっと、おれんちの方へ寄せ。おれもおまえんちの方にちよっと寄って

掃除する。そうすると、道路の真ん中を二人が掃除したことになる、境目が一番きれいになるってもんだ……！」

お互いがちよつと相手の方に寄る。寄りすぎちゃいけない。寄り過ぎちゃいけないが、重なっていく部分がどうしても必要なんです。プライバシーが行き過ぎると、相手と自分の境界線にすき間ができ、一番ほこりが溜まってしまう。親子も夫婦も同僚も、ちよつとした思いやりが大切なんですね。

#### ◇自利の家庭生活を見直す

小さな頃から、家のお手伝いよりも勉強しなさい、塾に行きなさい、土曜日曜はスポーツクラブ……と家のこと（利他）よりも、自分のことだけやっていればいい（自利）という偏った育て方が、日常生活の主流になっています。その延長線上で社会人になっても家ではお客様状態の若者が多いのです！

男女とも平素から勤めから帰るとお据え膳すけぜんで、母親が食事の準備や後片付けをしていてもスマホいじりをして何も手伝わない、休みの日は自分のやりたいことだけをしている若者が多いのではないのでしょうか。母親だってパートで疲れているのです。これでは結婚しても、実力不足、スキル不足で家事や子育て

が重荷となり、夫婦の協力も出来ず、離婚になっていくのです。

もう一つの社会問題は、増え続ける高齢運転者のアクセル踏み間違いによる暴走死亡事故です。

本当に人さま安全のことを思えば（利他）、個人差はありますが高齢となりちよつと危ないなあと自覚出来たら免許の返上をするべきでしょう。しかし、生活の利便性を優先するから（自利）事故は増えるばかりです。被害者や被害者家族はもちろん、加害者家族の人生まで狂ってしまいます。

しかし、高齢者に免許を返上するように言うのは簡単ですが、たちまち生活に困ってしまいます。高齢者の生活（利他）も考えてあげなければ、無責任（自利）で根本解決になりません。

なぜ免許が返上できないのか？それは若者都合（自利）の核家族が当たり前となり、代わりに乗せていってくれる家族が同居（利他）していないからです。

両親が高齢になったり、独居老人になったら、子供夫婦のもとに引き寄せるか、実家に戻って同居しない限り免許は手放せないでしょう。しかし、引き寄せることも戻ることも現実には難しいでしょう。

そうしたら、老人医療制度のように後期高齢者になったらタクシー代を一割負担とか二割負担にして、買い物や通院など気軽に利用できるようにすれば免許は返上できるでしょう。事故に係わる悲劇や物的被害、人的被害、医療負担などを考えれば安いものではないでしょうか！

しかし、財源とか制度の問題で実現は難しいかもしれません。

### ◇祈りと徳の生活

頼る家族もない、タクシー代で経済が持たないとなれば運転するほかありません。老人も若者も自分の運転技術を超えた時、事故が起きるのです。では、どうしたらよいのでしょうか。自分の力を超えた時は目に見えない神仏のご加護に守られる以外にありません。

車に乗ったら必ず手を合わせ、南無妙法蓮華経とお題目を三回唱え「どうぞ無事目的地に着きますように。用を果たして無事帰ってこれますように」と毎日毎回唱え、毎月交通安全のご供養をして徳のエアバックで「仏さまに守られる生活」をする以外に方法はありません。どうぞ今日から、老人も若者も身に口に心に（身口意）妙法を唱える生活を実践しましょう！

# 今月の運勢（1月）

（2023年1月5日～2月3日）

## 一 白水星

前に進むことよりも結果を出すことを考えよう。信念を持つて時を待てば結果が出る。何事にも勝機がある。今がチャンスと見定めたら、間髪を入れずに素早く行動すること。

## 二 黒土星

運勢は非常に強く、大いに前進発展の可能性がある。実行力があるので人は何も言えないが威圧的になってはいけない。大きな収穫も得られるが有頂天にならず非常時を想定して備えること。

## 三 碧木星

変化の時。小事はよい

が大事を成す時ではない。積極的に動くことは良くない。消極的過ぎるぐらいが時に利をもたらず。攻めるより守りを、前進より維持を、昇るより後退を心掛けること。

## 四 緑木星

気分も明るく脚光を浴びる所にいるが、裏方のお蔭を忘れないこと。特に家族や仲間との和合や協調が大切。ちよつとした衝突が大きな争いになるので怒りは禁物。

## 五 黄土星

運気の谷間にいる。人間関係にトラブルを生じやすいので要注意。

何事も前向きに考えて腐らないこと。先祖供養をしっかりと乗り越えよう。睡眠不足と体の冷えには要注意。

## 六 白金星

みんなの思いがばらばらで交わらないので何事もうまくいかず閉塞感が漂う。腹をくくつて時を待つしかない。自分の能力は内に隠して表に出さぬこと。目立てば疎まれる。

## 七 赤金星

運氣がゆつくり昇り始める。自分が喜びと感謝の心で動き始めれば、周囲の人々も喜び従ってくれる。明るい声掛けが大切。多くの

人が従い集まってくれ

るが浮かれて油断してはいけない。

## 八 白土星

風が山にぶつかって止まるように難問に直面するが、高運期の勢いに乗って困難な問題を解決するチャンス。一からやり直せば元通りに収まる。大掃除の好機と考えよう。

## 九 紫火星

一旦足を止め、じっくり周囲を見渡してみよう。新しいことを始めるのではなく、新しい人材が育つのを待つ時。来るべき時に備えて力を蓄え、アイデアを練り直そう。

## しあわせ眼鏡

何も打つ手が無い時、  
一つだけ打つ手がある。  
それは勇気を持つこと。  
迷った時は、  
ともかく勇気を持ってやっ  
てみる。  
すると道が開ける。  
怯<sup>おび</sup>えて何もしないと何も進  
まない。

お気軽にご連絡ご相談下さい

- |          |           |  |
|----------|-----------|--|
| 【総本山真生寺】 | 〒501-1105 | 岐阜市彦坂 178 番地<br>T E L 058 - 235 - 7304       |
| 【岐阜教会】   | 〒500-8882 | 岐阜市西野町 3 - 19<br>T E L 058 - 262 - 9615      |
| 【大阪教会】   | 〒532-0028 | 大阪市淀川区十三元今里 3-4-10<br>T E L 06 - 6308 - 5637 |
| 【名古屋教会】  | 〒454-0808 | 名古屋市市中川区九重町 3 - 10<br>T E L 052 - 351 - 3904 |

上記の教会にお申込み下さい。必要な冊数を毎月お送り  
します。詳しくはお尋ねください。